A person with dark hair, wearing a white shirt and a blue tie, is holding a large, blank sheet of paper. The paper is held up in front of their chest, and the text is printed on it. The background is a light blue sky with white clouds, and there is a strip of green grass at the bottom of the image.

政治家を志す  
「政治の場からバリアフリー」

## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

私が政治家を志した理由は、  
**障がいをお持ちの方と、健常者が共に働ける社会**を  
作りたかったからです。

その意味では、本年4月から施行される障害者差別解  
消法を始めとする、障がいがお有りの方への理解を  
促す制度面が充実していくことは、とても嬉しく思  
います。

## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

1歳で聴力を失った私は、  
物心ついた頃より障がい者として扱われてきました。

聴覚障がいがあると、就職先も中々見つからず、様々な悔しい経験もしてきました。



## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

私は、いろいろな方とお話しするのが、大好きです  
ですので、「接客業」に就きたいとずっと思ってい  
ました。

**耳が聞こえなくても**、「筆談」という方法や、ゆっ  
くりお話しいただくことで、**接客業を行える**と思っ  
ていましたが、

## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

健常者の方からは、

**「耳が聞こえないと接客業なんてできない」**

とはじめから、決めつけられてしまうこともありました。



## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

働ける環境に恵まれば、活躍出来る障がいをお持ちの方も沢山いると思います。

しかし、障がい者というだけで、**その機会に巡り会えない**方もたくさんいらっしゃいます。

## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

例えば、「寝たきり社長」こと、佐藤仙務さんという方がいらっしゃいます。

動かせるのは親指と顔だけという重度の障がいがお有りなのですが、Webサイトを制作する会社を自分で作られています。

## 政治家を志す「政治の場からバリアフリー」

私は政治家という立場から、障がいがお有りの方が活躍できる環境を作りたいと思い、立候補を決意しました。



A person with dark hair, wearing a white shirt and a blue tie, is holding a large, blank, spiral-bound notebook. The notebook is held in front of their chest, and the text is centered on the page. The background is a bright blue sky with soft white clouds, and a strip of green grass is visible at the bottom edge of the frame.

# 音の無い選挙

## 音の無い選挙

ここにいらっしゃる皆様は、それぞれ選挙活動をされてきていると思います。

「**選挙カー**」や

「**駅前での演説**」

といった方法を使われたのではないのでしょうか。

## 音の無い選挙

このような活動も、耳が聞こえず、思うように話すことができないと、当たり前ですが行うことができませんでした。

これにはとても困りました。

## 音の無い選挙

選挙カーや街頭演説ができないので、代わりに私の  
思いを書いたチラシを作り、  
皆様に配ろうと思いましたが、

国会議員の選挙と違い区議会議員の選挙では、  
チラシを配ることも法律で禁止されており、  
**チラシを配ることはできませんでした。**

禁止されていることを初めて知ったときは、「なんで配れないのか？」ととても不思議に思いました。

## 音の無い選挙

得意の**筆談**で、道行く方とお話しすることも考えましたが、**筆談**も、大勢の方の目につくようになってしまうと「**広告**」と見なされてしまう可能性があります。

選挙では「**広告**」は厳しく制限されており、決められた場所以外には掲示できません。



選挙では使えませんでした・・・



演説もできない、チラシも配れない、筆談もできないとなると…とても困りました。

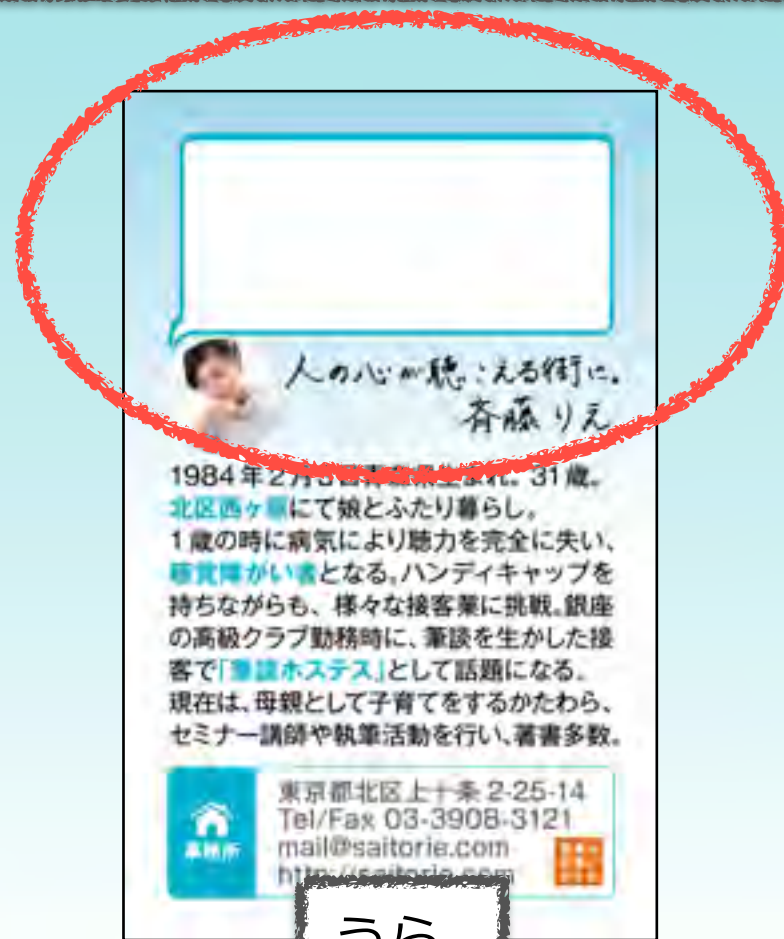
そこで閃いたのが、

**ご挨拶をし、名刺を配ること**でした。

名刺の裏面に簡単な筆談のスペースを作り、そこでお話しもできるようにしました。

## 音の無い選挙

これが実際に使った名刺です。  
うら面で、筆談ができます。



## 音の無い選挙

改めていま振り返ると、日本の選挙に関する法律（公職選挙法）は、**障がい者の立候補を想定していない**ことを感じます。

音が使えないと、聴覚障がい者にはかなり不利です。

これは、昔から障がい者は政治の世界では「**介助**」の対象で、

「**障がい者は健常者に助けられる存在**」だと思われるからでしょう。

障がい者が活躍することなんて、昔は誰も考えていなかったのです。

しかし、環境さえあれば、もちろん、障がい者だって健常者以上に活躍することもできます。

私も、障がいを持っている当事者の1人として、障がいがあるだけでも議員ができることを証明していきたいと思っています。



## 音の無い選挙


そして、やはり、障がいの当事者が政治家になり、内側から変えていくことは、とても重要だと思います。

まずは障がいがお有りの方が、投票するという点からバリアフリーを考えつつ、その先の「議員になる」という点も、考えていく必要があります。

これは「手話言語条例」も同じです。

障がい者が「生活しやすい」ではなく

「活躍できる」環境を作ることがあるべき政策です。

A person with dark hair, wearing a light-colored top, is holding a large, blank, spiral-bound notebook. The notebook is held in front of a bright blue sky with soft white clouds. At the bottom of the image, there is a strip of green grass. The overall scene is bright and clean.

# 音の無い議会活動

## 音の無い議会活動

「耳が聞こえなくて、話すことも苦手だと、どうやって政治家としての活動を行なっているのか」と多くの方に聞かれます。

## 音の無い議会活動

今日のように、マイクで話しながら、スライドを映すことができれば、良いのですが、議会では「声」のみしか使ってはならず、話す内容を筆談することも禁止されています。

そこで、「音声読み上げソフト」を使っています。

## 音の無い議会活動

私が伝えたいことをパソコンに入力し、「再生ボタン」を押すと、私に変わってパソコンが文章を読み上げてくれるソフトです。

事前に原稿を作っておくだけではなく、タイピングすればその場で会話することもできます。





「音声読み上げソフト」は声の代わりですが、  
耳の代わりとなっているのが「**音声同時翻訳ソフト**」  
と呼ばれているソフトです。

こちらは、皆様がお持ちのスマートフォンの「音声  
入力」をイメージしていただければ、分かりやすい  
と思います。

## 音の無い議会活動

他の方がお話しされた言葉が、マイクを通し、パソコン上に文字として表示されます。



## 音の無い議会活動

議会では、全てのマイクがパソコンにつながっており、  
どなたが発言されても、全て文字に変換されます。

議会の私の席には、タブレット端末が置いてあり、  
そこに文字が表示されるようになっています。

もちろん、まだまだ誤って変換されてしまうこともありますが、それでもとても便利です。

「情報を保障」することも、とても難しいことがあります。

それでは

「どの程度まで情報を保障すべきか」

ということです。

例えば、音声ソフトには誤変換がありますが、ソフトの精度をあげて、誤りをゼロにすることは現実的ではないかもしれません。

言葉の要点だけを書く「要約筆記」も、一部情報が圧縮されてしまい、省略されてしまうこともあります。



冒頭でご紹介した、元白馬村議の桜井さんは、「手話通訳」が認められておりました。

手話は、目で見えていないと、内容を理解できません。皆様ご存知の通り、議会には紙の資料が多く、そのため、資料を見ていると、手話を見逃してしまいます。

## 音の無い議会活動

健聴者であれば、目で資料を見ながら耳で話を聞けるのですが、

聴覚障がい者は、目でしか情報を得られないため、資料と見ながら話を聞くのが難しいのです。

そこで、手話通訳とともに、「見逃した」場合に情報を確認するために、「要約筆記」も追加で置いて欲しい、と要望されたそうです。

しかし、健聴者の方も、「聞き逃す」ことがあるため、「手話」と「要約筆記」は、かえって聴覚障がい者の方が恵まれてしまう、という反対意見が多かったそうです。

最終的には、桜井村議の要望が通ったのですが、  
このように、障がいの当事者でないと、  
「何に、どの程度困っているか」

は分からないでしょう。

ぜひ、ヒアリングの機会や当事者の視点になって考  
えるということ、していただければと思います。

## 音の無い議会活動

北区では、他の議員の皆様より、大変ご理解をいただきました。

音声ソフトの導入は、日本で初めてのことでした。  
今後、

**まずは議会から、バリアフリーが進んでいくことを**  
期待します。



## 音の無い議会活動

音声同時翻訳ソフトの導入のおかげで、私の議会活動がスムーズに行えるようになったこと以上に、とても嬉しいことがありました。

それは、**議会の見学席でも、音声が表示されるタブレットの貸出が可能**になったことです。

このことで、私以外の聴覚障がいがお有りの方も議会を見学できるようになりました。

## 音の無い議会活動

北区では実際に、聴覚障害者協会の方や、手話サークルの方が議会の見学にいらっしゃっています。

そして毎回、微笑みかけてくださり、終わった後には感想や、政策のアイデアをくださいます。

そんな皆様から私も、エネルギーをいただいています。

北区議会では、**障がいがお有りの方の政治参加がますます進んでいます。**

## 音の無い議会活動

また、私が議員になった今年4月に、兵庫県明石市で、家根谷（やねたに）敦子さんという聴覚障がいをお持ちの方が立候補され、当選されました。

家根谷さんとはお知り合いでもなく、事前に連絡をしていたわけでもないので、

**全く同じ日に、同じ障がいを持った方が出馬され、  
当選されたことからも、  
社会が変わってきている** ことを感じました。

また、今年の4月からは障害者差別解消法が施行されます。

障がいをお持ちの方の社会参加も増え、社会の側の理解も、進んできているように感じます。

ぜひ、三重県からも、障がいをお持ちの方への理解が進んでいくことを、願っております。



今日は、ありがとうございました。

東京都 北区議会議員 齊藤りえ